

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 107人

② 算数 107人

5 留意事項

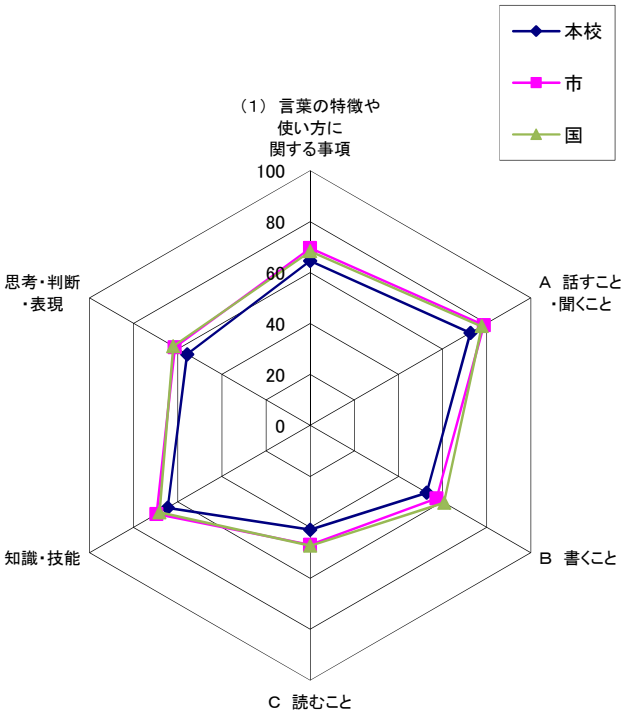
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.6	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	72.6	78.7	77.8
	B 書くこと	52.8	57.3	60.7
	C 読むこと	40.9	46.9	47.2
観点	知識・技能	64.6	69.6	68.3
	思考・判断・表現	55.8	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

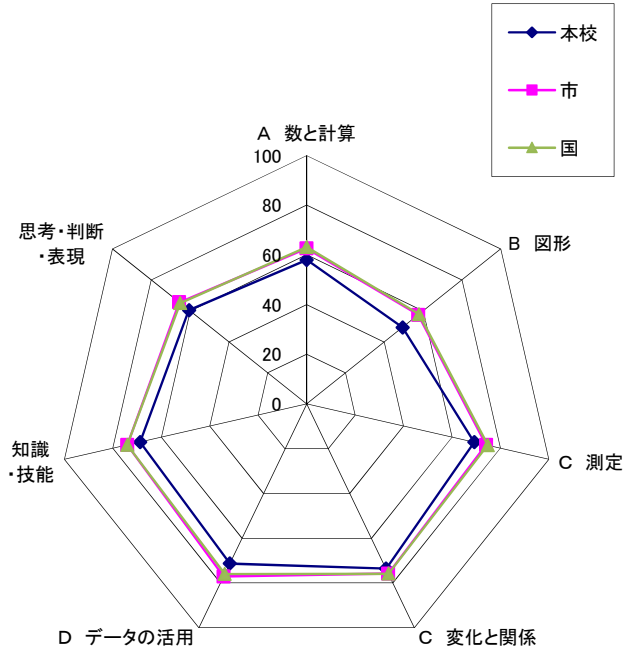
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○文章中の主語と述語の関係を捉える設問や、修飾と被修飾の関係を捉える設問で、全国平均より正答率が高い。 ●文中の言葉について漢字を使って書き直す設問では、正答率にばらつきがある。漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習の漢字については、朝の学習の時間や家庭学習で繰り返し練習することで、しっかりと定着するようにする。 ・漢字の学習をする際には、漢字一文字を扱うのではなく、その漢字の意味や熟語などについても取り上げ、文の中で正しく使えるような指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○目的や意図に応じて資料を使って話すことについての設問では、全国平均よりも正答率が高い。 ●スピーチ内容の構成を考える設問では、全国平均と比べて、正答率が13.3ポイント低い。	・今後も、日常生活の中で、話し手の考えをよく聞き取り、自分の考えを自分の言葉で伝えることができるような場面を多く設けていく。 ・「ただ伝える」のではなく、何を伝えたいのか、目的に応じた話し方について、授業やスピーチの時間を活用して、継続的な指導をする。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○文章を、例を用いて詳しく書き直す問題では、全国平均よりも正答率が高い。 ●文章の構成の説明として適切なものを選択する設問では、全国平均に比べて正答率が18.6ポイント低い。	・文章の基本的な書き方について指導するとともに、自分の考えなどを書く活動を多く取り入れ、「書くこと」の習慣化を図る。 ・文章を書く際には、自分の考えが相手に明確に伝わるよう、文章全体の構成や展開を考えて書けるような指導をする。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○文章の要約を記述する問題では無回答率が低く、自分なりの記述をしてはいるが、正答率は低い。 ●文章を読み、中心となる事柄を把握する設問や、文章と資料を結び付けてまとめる設問で、正答率が低い。	・説明文の読み取りの学習などでは、中心となる文や言葉を見付け、それをもとにして要約する活動を大切にし、文章の内容を的確に読み取る力を身につけていけるようにする。 ・NIE実践(新聞を使った活動)など、文章の内容を読み取る活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立五代小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.0	62.6	63.1
	B 図形	49.4	57.5	57.9
	C 測定	69.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.6	75.8	75.9
	D データの活用	71.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	68.8	74.1	74.1
	思考・判断・表現	60.6	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○除法の結果についての設問や、場面を除法の式に表して計算する設問は、全国の正答率と同程度である。 ●二つの道のりの差の求め方を記述する問題や、小数を用いた倍において比較量について記述をする問題で、正答率が低い。	・乗法や除法の計算の仕方を確認し、継続的に指導して定着を図る。技能の個人差が大きいので、個に応じた支援を行っていくことが必要である。 ・立式する際には、式の意味を理解できているかどうかを、言葉や図で説明するなどして確認し、根拠をもって立式ができるような指導をする。問題場面を適切に理解し、数学的に表現することができるようにする。
B 図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●直角三角形の面積を求める式と答えを書く設問で、正答率が低い。図形の面積の求め方についての理解に課題がある。	・面積の求め方などについては、「公式を覚える」だけでなく、その公式を導き出す過程をしっかりと押さえ、公式の意味を理解して計算できるための指導を大切にすること。 ・指導に当たっては、パソコン等のICT機器や模型などを活用した授業を行い、視覚的な面からも理解を深められるようにする。
C 測定	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●二つの道のりを求めるための数値を選ぶ設問で、正答率が低い。 ●直角三角形を組み合わせた図形の面積についての設問で、正答率が低い。	・答えを導き出すためにはどの数値が必要なのかを考えてから課題に取り組むようにさせる。必要な数値が表されていない場合には、分かっている数値から求めることを押さえる。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均と同程度である。 ○道のりと時間の関係について考察する設問では、全国の正答率と同程度である。 ●速さと道のりを使って時間を求める式を表す設問での正答率が、やや低い。	・数直線や図などを使って、数値の関係性を正しく捉えて問題に取り組めるような指導をする。 ・速さの学習では、時間・道のり・速さについて、相互の関係をしっかりと押さえた上で、問題演習に取り組ませる。 ・実生活に結びつくような課題を設定し、解決できた喜びを実感できるような課題を設定する。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○棒グラフから数量を読み取る問題で、正答率が高い。 ●棒グラフの項目間の関係を読み取る設問や、データを表に分類整理することについての設問で、正答率が低い。	・グラフの読み取りの学習では、目的に応じて各項目の数量の大きさを読み取るだけでなく、項目間の関係や全体的な特徴などを読み取る活動も重視して指導する。 ・算数に限らず他教科でも資料の見方について取り上げていく。

宇都宮市立五代小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問には、95%近くの児童が肯定的回答をしている一方で、「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した児童も約5%いる。朝食の必要性について、児童に引き続き指導をし、家庭にも呼びかけしていきたい。

○「友達と協力するのは楽しいか」の設問では93.4%、「人の役に立つ人間になりたいか」では95%以上の児童が、肯定的な回答をしている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えるか」の質問でも肯定的回答率が高い。今後も、学級での役割について考えさせたり、お互いをほめたり認めたりする場面を意図的に設けたりしていきたい。

●「自分には良いところがあると思うか」の質問には、71.0%の児童が肯定的な回答をしているが、30%近い児童が「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答している。「将来の夢や目標を持っているか」の質問でも、肯定的回答率は全国に比べやや低い。今後も引き続き、自分と向き合い、将来について考える活動の時間を十分にとっていきたい。よいところを認め賞賛する機会を多くすることで、自己肯定感を高めていきたい。

●「家で、計画を立てて勉強をしていますか」の質問への肯定的回答率が低い。自分のための学習という意識をもち、自分に必要な学習を考え、進んで取り組めるよう、家庭学習の仕方について、学習内容の例などを示しながら再度確認する。

宇都宮市立五代小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・粘り強く自力解決に取り組む、より良く解決できる手立ての工夫	・授業の中で働かせたい見方・考え方をしっかりと確認しておき、思考の過程や根拠を表現させるための手立てを工夫する。 ・「分かりやすく伝える」という目的意識、相手意識をもたせるなど、よりよい方法で表現することの大切さを理解できるようにする。	・各教科とも、多くの領域で正答率が、全国の平均正答率を下回っている。 ・記述式の設問になると、解答をしない児童がいる。粘り強く自力解決しようとする意欲と、それを支える基礎・基本の内容の確実な習得が必要と考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科とも、多くの領域で、正答率が全国の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な知識や技能の確実な習得と、活用する力が十分でないと考えられる。	・基礎基本、既習内容の定着	・朝の学習の時間、授業での復習・定着の場を活用し、基礎的な内容の定着を図る。 ・算数(高学年)での習熟度別(少人数)指導などにおいて、個に応じた指導を充実させる。 ・家庭学習の内容の検討や進め方の工夫(学年に応じた課題の検討や自主学習の指導)を行い、各種便り等で保護者への啓発を図る。